

# 校長室だより

令和3年1月12日 No34

大田区立入新井第五小学校

校長 岡野 範嗣

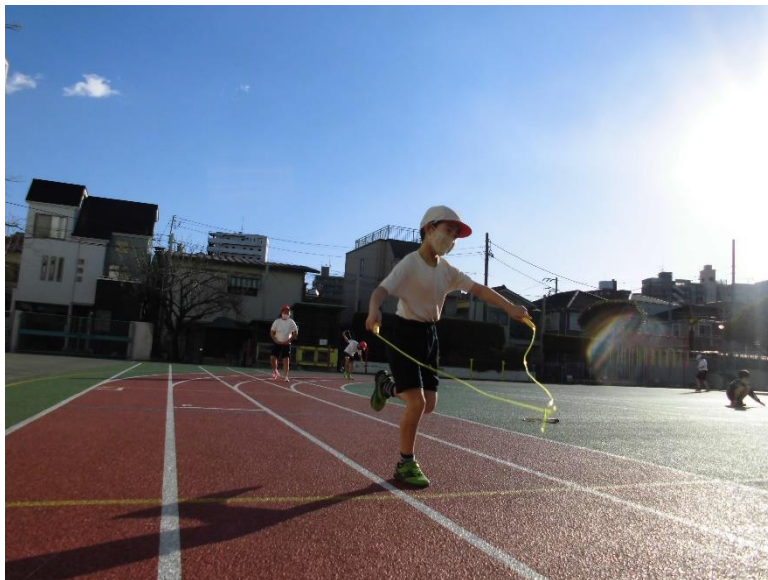
●●●● 3学期が静かに始まりました ●●●●



これから真冬に突入する東京ですが、校庭の花壇には、早くも可愛らしいスイセンが咲き始めました。東門のそばの花壇を見ると、菜の花も咲いています。日当たりがよくポカポカとした校庭ではありますが、やはり地球の温暖化が進んでいるのでしょうか。



花の写真を撮っていると、校舎の窓からは、「おはようございます」の爽やかな声が聞こえてきました。ほかの教室からは、子どもたちと先生の笑い声が聞こえてきます。ほんわかと温かい空気が漂う入五小の3学期がいよいよ始まったのだと感じる気持ちの良い朝でした。



1時間目が始まると、さっそく3年生が元気に校庭に出てきて、縄跳びをしながらコース上を走り始めました。透き通る青空の下、キーンと冷たい空気を感じながら元気に縄跳びをする子どもたち。

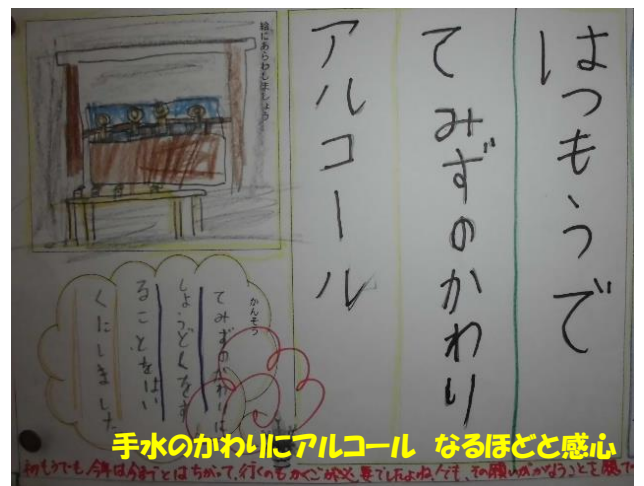
どんな状況下であっても、学校は「笑顔いっぱい、楽しいところ」でなければいけないと改めて感じたところです。

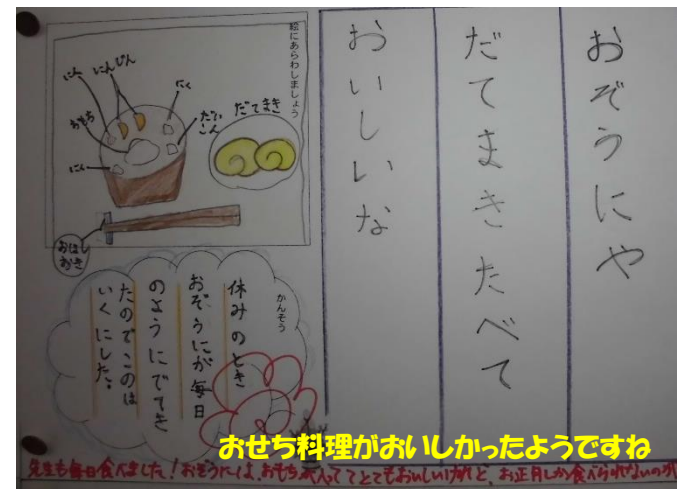
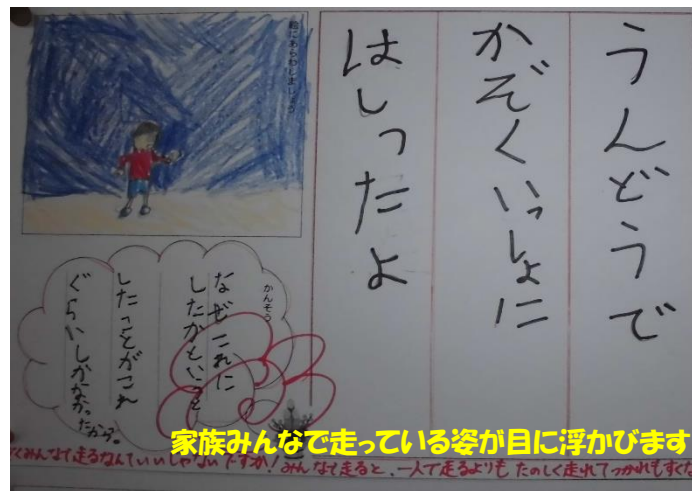
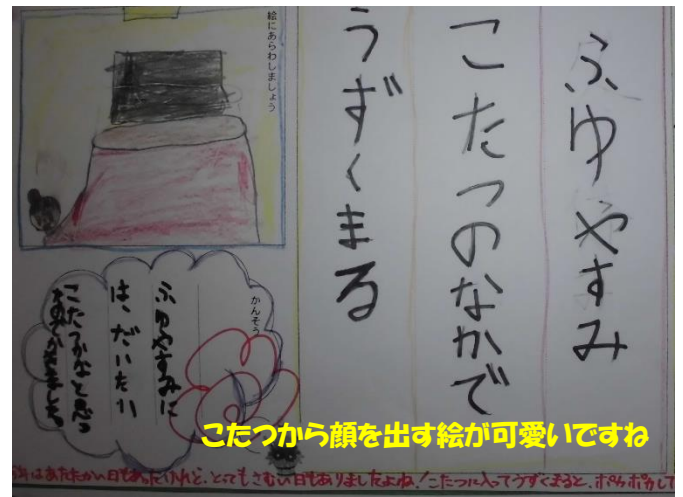
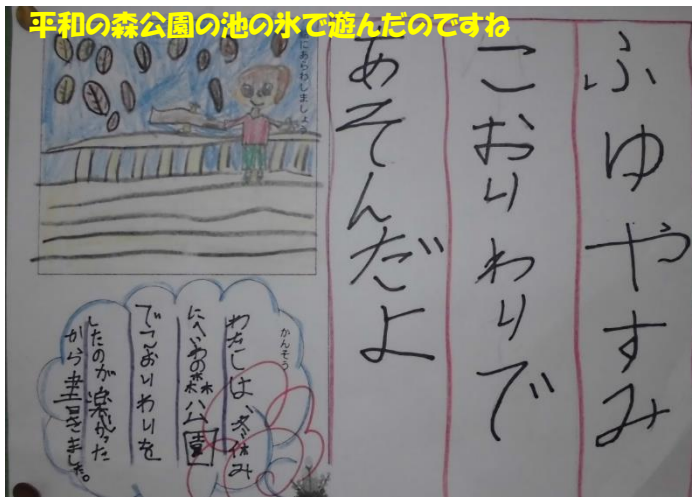
教室を見て回ろうと廊下を歩いていると、もうすでに掲示板には、冬休みのこと

が書かれている「思い出日記」が貼られていました。

一つ一つ読んでいくと、外出自粛のコロナ禍において、それぞれの子どもが、楽しさを見出し、家族や親せきと共に心温まる年の暮れとお正月を過ごした様子がよくわかります。「はつもうで てみずのかわりアルコール」・・・これは2年生の書いた俳句です。

先生たちからも「すごいですね、この俳句!」と、絶賛でした。





## ●●●● 緊急事態宣言下の学校 ●●●●

新学期早々、コロナの話題ではと思い、ほのぼのとした話題から入らせていただきましたが、現実的にはコロナウイルス感染拡大が止まらず、大晦日の新規感染者は1300人超、さらに先週末には2400人を超えるなど、いよいよ東京も厳しい状況になっております。一都三県に緊急事態宣言が出され、子どもをお預かりする学校の教職員にも緊張が増しているのも事実です。やはり学校現場としては、校内におけるクラスターといった集中的な感染拡大を何としても食い止めなければなりません。とりわけ、マスクを外す給食の時間は、本来コミュニケーションを図る大切な時間ではありますが、現状を受け止め準備の時間から給食終了の時間まで、「私語は禁止」という対策をあらためて徹底させていただくことと致しました。子どもたちは、きちんと今の状況を理解しており、教室の見回りをして私語が聞こえてくる教室はありません。児童が黒板に向き、一言もしゃべらない様子は確かに違和感がありますが、「友達に感染させてしまったら・・・」「自分が感染してしまったら・・・」と考えると、やむを得ない対応であると考えしかありません。大田区からプレス発表される陽性者の状況を見ても児童・生徒の状況については「無症状」というケースが少なくなく、それが対応を厳しくさせる理由ともなっています。感染リスクが高まる中、安全で楽しい学校経営をしていくために、学校と保護者が共に同じ問題と向き合い、最善を尽くしていくことこそが「子どもの安全確保」につながるとお思いますので、ご協力の程よろしくお願いたします。特にご協力いただきたいのが、ご家庭でどなたか一人でも体調の不良を訴える場合があったときに、念のためお子さんをお休みさせて様子を見ていただくことです。どうしたらよいか、判断に迷うような場合は、遠慮なく学校にお電話でご相談くださいますようお願いいたします。お休みする場合は出席停止の対応をさせていただきますのでご安心ください。